2023 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	福田治久
研究機関名	九州大学
所属部署名	大学院医学研究院
役職名	准教授
研究課題名	健康データ創発的多地域コホート研究基盤の構築
研究実施期間	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

研究成果の概要

本研究プロジェクト（LIFE Study）は、自治体が保有する保健・医療・介護・行政等の健康関連データを住民単位で統合したデータベースを構築し、今後 20 年間にわたり追跡評価することで、ライフコース健康学を創出するものである。健康の関連要因・健康の波及効果の解明、データサイエンスに立脚した Evidence-Based Health Policy の変革、ヘルスケア産業における開発プロセス革新などを通じて、健康寿命延伸と健康格差解消に向けた創発的研究成果を産出することをめざしている。

2023 年度においては、LIFE Study 参加自治体を 31 自治体へ拡大し、2023 年 3 月分までの保健・医療・介護・行政等の健康関連データを収集し、個人単位で統合したデータベースを構築した。2023 年度は、死亡票を取得した連結解析を実施可能にしたことで、死因別の研究をも可能にすることに成功した。さらに、単なるデータベース研究とは一線を画し、データベース内でのコホート研究とデータベース内での RCT 研究を実施するという新たな研究アプローチを着想し、AMED「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究開発事業」を財源に新たな研究プロジェクトを創出した。

さらにライフコース健康学を創出するために、25 の外部研究チームとの共同研究を行い、LIFE Study データベースを提供した。2023 年度に LIFE Study を用いた共同研究プロトコルは 74 件が提出されており、現在多数の共同研究が行われている。2023 年度に論文発表 17 件を報告した。

また、Evidence-Based Health Policy への展開例として、1 自治体における LIFE Study の取り組みが地方紙の 1 面に掲載されるなど、自治体から多大な期待が寄せられている。

本研究は外部研究機関との共同研究が飛躍的に増加しており、2024 年度以降もライフコース健康学に関する研究成果を多数創出できると期待される。